

川崎市議会議員

松川 正二郎

まつかわ しょうじろう

令和元年 市政報告

子ども 老後 防災 防犯 交通

そのつばやきを政策に。

あんしんNo.1 の中原区へ

松川正二郎プロフィール

昭和 43 年生まれ、小学 4 年生の父 共働き世帯
城西大学経済学部卒 カリフォルニア大学リバーサイド校留学
復興大臣 衆議院議員 田中和徳 元公設秘書
家族：妻、長女（小学 4 年生）

NPO 法人 防災・防犯ネットワーク理事・中原支部長
中原区町内会連絡協議会理事 中原区防火協会理事
中原区自主防災組織連絡協議会理事
新丸子町内会会長 中原消防団丸子分団班長
丸子地区社会福祉協議会理事 丸子地区商店街連合会顧問
中原中学校区地域教育会議顧問

TOPIC 1 「キッズゾーン」創設の動き

この1年の間に、4月での池袋での事故や、5月の大津市での事故等、重大かつ痛ましい交通事故が相次いだことを受け、政府は6月に閣僚会議を開き、**未就学児及び高齢運転者の交通安全についての緊急対策**をまとめました。具体的中身としては、子どもの交通安全対策として9月までに**子どもが集団移動する経路の緊急点検**を行い、結果を踏まえて歩道や防護柵の拡充を早急に進める旨と同時に、「**キッズゾーン**」の創設ということへの言及がなされています。キッズゾーン

とは、いわゆるスクールゾーンの未就学児童対象版ですが、第三回定例会ではこのキッズゾーンの創設等の政府の新たな取り組みを踏まえた本市の今後の動向について質問を致しました。

また、第五回定例会では、緊急点検の結果及び、その後のキッズゾーンの検討状況について質問致しました。まず、前者につきましては、市内 858 の施設を対象に点検が行われた結果、**対策が必要な箇所として 174 カ所**が確認されたとのことでした。これらの箇所については

国に報告をするとともに、関係機関に対してガードレールの設置等の対策案を作成し、要望を行っている状況とのことです。後者につきましては、対象施設が集中するという都市部特有の問題から、範囲の設定等に難しい点があるようですが、今後とも検討を継続していくとの答弁が得られました。

子どもたちが巻き込まれるような痛ましい事故がゼロになるよう、市による全力での取組を今後とも訴えかけて参ります。

TOPIC 2 ごみ処理の民営化・効率化について

前任期中である平成 24 年から取り組んで参りましたトピックです。民間にできることは民間に、質を保ちつつ、経費を縮減できることは縮減し、それによって創出された財源を市民の皆さんがより必要とするところへと予算配分していくという観点から、本件に着目して参りました。平成 20 年度から順次資源物の収集運搬業務に民間活力が導入され、平成 29 年には普通ごみ以外の資源物収集は全て民間委託となりました。さらに直近では、空き缶・ペットボトルは全市での委託化が完了しています。**その財政効果は、**

年額で約 4 億 3 千万円に上っています。第四回定例会では、決算審査と絡めまして、平成 30 年度の本市の清掃職員数と平均年齢、平均給与月額と、民間廃棄物処理業の従業員におけるそれらとの比較について質問を行いました。本市の清掃職員につきましては、平均年齢が 50.8 歳、平均給与月額は約 46 万円であるのに対し、民間では平均年齢が 45.8 歳、平均給与月額は約 29 万円とのことでした。なお、本市でごみ収集業務に携わる職員数は 410 人となっております。つまり、現状で**直営と民間での**

平均給与額には約 1.59 倍の開きがあり、実際のところごみ収集事業で費用の大半を占めているのが人件費となっています。他方で、普通ごみの収集業務は市民生活を支える重要なライフラインでもあり、平時にとどまらず、近年頻発しております水害や地震などの災害時における対応にも十分な配慮をしなければなりません。こうした点を踏まえ、平成 30 年度より始まった再任用制度の活用のほか、**効率的かつ持続可能なごみ収集事業のあり方**について、市とともに引き続き取り組んで参ります。

台風第 19 号による被害に先立って、9 月の第四回定例会においても、中原区丸子地区の浸水対策として平成 28 年度末に整備された丸子雨水幹線の効果や、平成 29 年 10 月の台風第 21 号による上丸子山王町地区での浸水被害を受けた対策についての質問を取り上げたばかりでした。市においても、平成 29 年の被害状況をシミュレーションした上での対策案の検討を進めていた最中でした。第五回定例会では、今回の台風第 19 号による被災を受け、各会派より多くの質問がなされましたが、中原区選出である私としましては、被害を実地で見参りましたことから、本件に関する質問に多

くの時間を割かせて頂きました。

小学校校庭の浸水・汚泥問題

まず、今回最も深刻な浸水被害があった地区に隣接する上丸子小学校は、校舎内の浸水こそなかったものの、校庭が浸水しました。多摩川の泥水と合流式下水管からの逆流によるものです。校庭は児童が使用する施設ですので、健康被害等に配慮し、10日間ほど使用が見合されました。その後、学校薬剤師からの助言等を受け、土砂の除去、遊具の消毒、土埃飛散防止のためのダスト散布等の措置がとられています。これらは今回の質問を

通じて初めて明らかになった点ですので、今後とも、市民の皆さんの安心のため、積極的な情報提供を訴えて参ります。

市による今後の被害検証

次に、今回の浸水被害で大きな問題となっている山王排水樋管のゲートからの汚水の逆流についてですが、各会派の代表質問への答弁として、「責任の所在と補償・賠償については、下水道や河川を専門とする第三者の意見を聞きながら進める、浸水被害の検証を踏まえ、適切に対応していく」「検証のとりまとめにあたっては、第三者への意見聴取のほか、市民

の皆様への情報提供や意見募集なども適宜行っていく」との内容がございました。専門家の知見としても、今回の台風に限らず、ゲート全閉派とゲート全開派の両論があるようです。そうした中、公正・公平な検証を担保するため、意見聴取を行う専門家の選定理由の公表の有無を質問致しました。この点、学識経験者や国の研究機関等から専門家を選定し、その理由についても公表を行うとの答弁を頂きました。また、検証のとりまとめにあたっては、被災された市民の皆様を対象に、ホームページ等で幅広く意見を聴取していく旨、回答を得ております。ゲートの開閉判断の裁量・責任は中部下水道事務所長にあります。住民説明会

や各会派の質問においては、行政の過失・瑕疵に基づく補償・賠償の話題も俎上に上っております。今後、国家賠償法に基づく損害賠償請求裁判の可能性等を含め、状況を見守って参りたいと思います。

災害時における情報伝達 小杉高層マンション地区の問題

上丸子山王町地区では、平成 29 年 10 月の台風第 21 号による浸水被害を受け、多摩川の推移情報などの住民の避難に必要な情報を、中部下水道事務所から中原区役所を経由して、地域の自主防災組織の代表である町会長に伝達し、町会長から地域住民に公報するといった連絡体制が構築されており、今回の台風第 19

号による被害の際にもこれが有効に機能を致しました。

一方で、今回の被災時において、NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメントを含む高層マンション地区の方から、区役所と連絡を取りたかったが電話がなかなか通じず、情報収集ができなかったという声が聞こえています。

中原区役所としましては、上丸子山王町地区の取組を参考として、小杉駅周辺エリアマネジメントを含む大規模マンションの自主防災組織に対しても、メールや SNS 等、効果的な情報提供を可能とする仕組みづくりを、今後検討していくとのことでもありますので、この点につきましても引き続き注視して参りたいと思います。

アンケートにご協力ください 下記にご記入いただき、FAX:044-330-1619 (松川正二郎政務活動事務所) までお送り下さい。

Q1 令和2年度、松川正二郎が現職の市議会議員として是非ともとりいれるべき施策等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

Q2 現在、ご興味をお持ちの政策、優先的に実行すべき政策としてお考えのものをチェックして下さい。

- 子育て・教育 雇用対策 まちづくり その他 医療・福祉 中小企業支援
防災・防犯 地域コミュニティ活性化 道路・交通 行財政改革・議会改革

ご協力ありがとうございました。

ご連絡先

松川正二郎政務活動事務所
 〒211-0005
 川崎市中原区新丸子町694-101
 TEL:044-328-9619
 FAX:044-330-1619

川崎市議会議員控室
 〒210-8790
 川崎市川崎区宮本町1
 川崎市役所 第2庁舎7階
 matsukawashojiro@gmail.com